

<実施事業内容>

東京から 30 km 余の距離にある八千代市は、東葉高速鉄道の開通以来自然豊かな北西部・北東部の市街地開発により、近年自然のホタルやメダカの棲息が見られていた場所が年々その数が減少した。これはかつて都市化が進む過程で、各地で見られた残念な実態であります。更に農業従事者の高齢化が進み田畑の耕作放棄が環境悪化に拍車がかかった事が原因で。

このままでは八千代市の豊かな自然環境は損なわれてしまうとの思いから、八千代オイコスは自然環境を守るため、住民・地域企業・行政その他の市民団体等と連携を保ちながら、2001 年 12 月に NPO 法人を設立し、以来花輪川を中心に環境保全と環境啓蒙活動を行って来た。

1. 地域環境の保全を図るための自然環境調査・評価事業

よみがえれ花輪川事業（豊かな自然を感じられる花輪川）

主活動拠点である花輪川は印旛沼水系・都市準用河川である。短時間の大雨による急流・増水などで、中洲護岸は容易に崩れその修復は容易ではないが、印旛沼最上流の川と意識し川中の清掃、水辺の補修を継続的に行っている。

昨年以前は花輪川上流に自噴する湧水量調査も行っていたが、年間を通して季節の量は若干の差は見られたが、ほぼ変化ない事が確認出来たのでその調査は暫く終了とした。

又、側道は地域の住民の憩いの散策道路となるよう、花壇の整備・清掃を行って来た。

(1) 花輪川遊歩道の整備と花壇の保守

(ア) 遊歩道の整備

花輪川には桑納川まで散策できる側道がある。この景観を保全するために花輪橋～土橋までの範囲で清掃、雑草刈りを毎月 1 回、夏場は 2 回行い遊歩道としての通路を確保している。今年も大学生数名の参加と、熱心なメンバーにより常時手入れが行われ、気持ち良い遊歩道が確保された。また、側道脇や花壇の草木に陶板で作成した名称表示板を貼付け、散策者に樹木や草花の名称を知ってもらい自然をより楽しんでもらっている。

(イ) 花壇の花苗植栽

花輪川の土橋から上流 50m には側道脇に整備した花壇がある。そこには季節に応じた草花を植栽するとともに、川の堤側面にはマツバギクの植栽を行い、遊歩道を訪れる市民の目を楽しませるため景観の保守、整備を定期的に行っている。

本年度も環境緑化公社よりご協力頂きサルビア、パンジーを植えた。

(2) 花輪川河川内の整備

(ア) 水草の繁茂状況

ここ 2 年ほどの傾向として川全体で繁茂する光景が見られたヤナギモ等の水草もほとんど見られなくなっている。水の流れとの関係を探り、今後の検討課題としたい。中洲や護岸に自然生育の菜の花は毎年季節になると素晴らしい景観を見せてくれる。

(イ) 中洲の護岸修復作業

夏場の急激な増水や激流の発生で中洲の護岸の崩落が起り、その都度修復を行っているが、夏場はアシ等の繁茂が激しく間に合わない状況が起こっている。花輪川全体の川筋も変化がみられるが、自然に抗うことをせず様子を見守りながら美観を維持することを心掛けてきた。

(ウ) 花輪川最上流部の流入水

花輪川最上流部は 3 面コンクリートに覆われた排水路である。八千代緑ヶ丘住宅地北東部の東葉高速鉄道操車場脇下を流れており、花輪橋を過ぎてから花輪川となる。この水路最上流に自噴する湧水量は数年の調査により、ほぼ変化無い事が確認されたのでしばらくその調査は停止する事とした。

(3) 環境美化里親（アダプト）制度の活用

本年度も花輪川の各活動においては平成 20 年 5 月に改定したアダプト制度の合意書に基づき、八千代市都市整備部土木建設課と連携をとりながら活動を行って来た。

2. 自然環境に関する意識開発、環境教育支援事業

(1) 川の学校

今年も花輪川を中心に川の学校を開催した。

7月29日の1日目、班作りから始まり、花輪川の水の検査を各自で試薬を使い調べて花輪川に入り網とペットボトルで作った仕掛けを設置した。又2年目となる「水循環」の勉強も大きな興味を持って取り組みました。2日目は仕掛けを外し、全員花輪川の中の生き物探しに夢中になる。午後には農業交流センターに移動してワークショップ「花輪川に生き物がたくさん棲める作戦会議」を班ごとに話し合いそれを全員で発表した。参加者は市内の小学校より33名の子どもたちと保護者+講師+スタッフ合計76名となりました。

かわら版35号「川の学校特集号」を参照

3. 地域のホタル等の水辺の動植物調査及び棲息環境の保全・改善事業

(1) 市内のホタル調査

- ① 以前からオイコスでのヘイケボタルの調査を市内各所で行って来たが、ホタル環境の悪化で殆どその姿が確認できず、昨年より棲息調査を打ち切りとした。
- ② 年一回のホタル観賞会は継続し、8月5日(土)には八千代市民約30名の参加による八千代市内で数少ないホタルの棲息が見られる石神谷津にて開催。この地も自然のホタル減少傾向だが100匹ほどのきれいな光の点滅を観賞する事が出来た。参加の皆さんは大喜びでした。

4. 地域の里山自然保全のための河川等の水質浄化及び湿地帯、休耕田の有効利用事業

(1) 米づくりの会を開催

昨年に引き続き神久保において1/4反ほどの小規模田圃を借り受け、全て手作業にてもち米の植え付けを行った。本年度も一般市民から希望者を募った結果、6家族、23名(延べ数)が参加してくれた。田植えから田の草取り、ハザ架け、収穫まで大勢の参加者でにぎやかに楽しく作業が進められその収穫は68kg余でした。

(2) 餅つき会

昨年度に引き続き島田地区やちよ農業交流センター広場で12月17日(日)に開催した。参加人数は米づくりの会員、オイコスメンバー含め21家族であった。

もち米82.4kgを臼で14回、もちっこ14回と大量のモチを搗き上げた。

杵臼部隊と餅つき機を2台使用、打ち手の負担を少なくしようと工夫し、良質なお餅を搗き上げることが出来た。

当日は八千代農業研修センターのご協力を得て、風もなく好天に恵まれ、暖かい一日をおいしい搗きたてのお餅とトン汁などに舌鼓みを打ち、楽しいひと時を過ごすことが出来た。

5. まちづくり活動に係わる行政及び諸団体の協働及びネットワーク事業

(1) 市民活動団体支援金制度(1%支援制度)に応募

八千代オイコスでは本年もこの制度に応募し花輪川遊歩道、花壇整備等の活動にこの資金を充当した。昨年は従来の制度が変更され新しい方式で実施されたが会員の熱心な取り組みにより、大きな成果を得ることが出来た。取得金額実績 97,911

この改制度により飛躍的な取得金額を得たが、この方式を今後更に継続してみないと良し悪しの評価は判断できない。

PRの手法に本年も最新版の<オリジナル動画>を用いたが、その効果の程はなかなか判定不十分である。

(2) 行政及び市民活動団体との協働

① 八千代市市民活動サポートセンターでの協働

八千代オイコスでは八千代市の市民活動サポートセンターには毎年継続的に運営スタッフや運営委員として参画し、その運営に関して積極的に参画している。

- ・平成29年4月21日(金)NPO法改正研修会
- ・平成29年7月21日(金)地域デビュー講座
- ・平成29年11月12日(日)市民活動フェスティバル
- ・平成30年2月24日(土)メディア関係交流会

② 千葉県河川環境課との協働

八千代オイコスが千葉県の「印旛沼連携プログラム」の参加団体として登録している。この事業の一環として、毎年「花輪川エコウォーキング」を実施してきた。平成29年4月2日（日）と平成30年3月25日（日）「菜の花エコウォーキング」を実施した。又、11月26日（日）には「100年以上の歴史を刻む市内長屋門見学とウォーキング」を実施。

③ 八千代市「ほたるの里づくり実行委員会」との協働

八千代オイコスはこの会の団体会員に登録しているが、オイコス会員の内、数名が「ほたるの里づくり実行委員会」の役員になり、その運営に参画し、行事企画・実行に協力している。

- ・平成29年4月15日（土） ほたるの里総会。
- ・平成29年7月21日（金） 夜の生き物観察会に参加。

④ その他

- ・八千代市市民活動団体連合会関係 第2回「千本桜祭り」平成30年3月3日～4日
- ・ボーイスカウト第2団との共同活動 ボーイスカウトデイ9月10日（日）

(3) 企業との協賛

①イオン八千代緑が丘店において「イオン幸せの黄色いレシート」キャンペーンに参加し、毎月11日には店頭活動を行い、活動に必要な文具や作業用品の支給を受けている。

尚、2017年3月～2018年2月の年間協力期間の参加実績額（レシート合計額の1%）56,000円のイオンギフトカードの贈呈を受けた。（3月）

②イオンでは毎年3月11日に東日本大震災支援キャンペーンを行っている。

(4) 広報活動

①八千代オイコス会報かわら版の発行

本年度は34号（6月）・35号（11月）・36号（2月）を発刊し、市内公共機関や会員等に配布し、八千代オイコスの活動を広く紹介した。

残念な事に「かわら版」編集に永く係わり、カラー化の実現化や自ら紙面構成にカットの作画を描き続けてくれた田邊英明氏（オイコス監事）が10月に逝去。

その為、35号発刊が大幅に遅れた事も含め大変残念な、そしてその数か月前7月に事務局長小原翔氏を失うオイコスにとって一大ショックを受けた事でした。

現在、新監事・野口和子氏を編集長に新体制で今後の「かわら版」発行に尽力して行くことになりました。

②ホームページの充実及びPR動画

本年度も、専門知識の高い会員によりホームページのメンテナンスが従来以上にきめ細かくフォローされ、内容の充実が図られた。又八千代市との連動も同時に行い一層のPR効果を高めた。支援制度PRには当会の動画を製作、ビジュアル面の強みも発揮出来た。

③オイコスイベントPRの強化策

イベントPR用に外部印刷によるチラシ製作とインターネット公募申込み受付を採用した。

6. 本年度の成果と留意点

オイコスは長きに渡り花輪川の清掃と水の浄化を目指し活動を続けてきましたが、都市化の波は活動の範囲を超えスピードを増しています。これまで外に向かってアピール出来るオイコス活動としては花輪川を使った[川の学校]、通年を通して神久保の[米作り]が主でそれは八千代と言う都市化と原風景が混在する中でたくさんの子供たちに自然体験を通して八千代が故郷として心の片隅に残っていてほしいと願い、子供たち同士の知り合う場、友達つくりの場として、“自然”と言うキーワードの中で、八千代でしか出来ない経験をしてもらう場作りを提供してきました。即ちオイコスは子ども達との活動が“地域教育の場”となる事を更に高めて行きたいと願っています。

来年度の活動はこの事を原点に、一層の充実した企画を展開したいと思っています。